

第 1 回 まちなか公共空間における「芝生の造成・管理」に関する懇談会  
議事概要

日時:2019 年 7 月 12 日(金)9:30~12:00

場所:中央合同庁舎3号館6階都市局議室

※ 事務局より、資料に基づき懇談会の主旨等について説明がなされ、その後、委員・ゲスト委員からの発表と出席者間における意見交換が、以下のようになされた。

[芝生地を活用した新しい街づくりにむけて]

- 芝生地の全体像としては、都市公園から、校庭、駐車場、ゴルフ場、軌道敷の中、多目的広場、競技場等だけでなく、人工地盤上の傾斜地に使用され、その効果は、視覚的效果、心理、環境改善、利用することによる効果に大別される。
- グリーンインフラとしての芝生の役割・効果として、土壌の空隙により保水層を確保した事例や、保水層を設けたことで、結果として灌水せずに緑地が維持できている例もある。
- 今後、検討したい課題としては、1)灌水の手間が省けないか、2)立ち入り禁止看板を減らせないか、3)芝刈りの高さや成長との関係、4)人工芝との併用による踏圧対策、5)人工芝と自然芝とのハイブリッドタイプの導入等。
- NY のセントラルパークやブライアントパークのように、費用をかけて芝生を管理し、価値を生む芝生地としていく方向性が重要ではないか。

[ 天王寺公園:てんしば ]

- 天王寺公園のリニューアルの取組は、P-PFI の先駆けともなった事例。世界中の公園を調べ、地域の受け皿となるイベントの実施が可能な芝生広場を大阪府の公募に対して提案した。公募条件で 2,500 m<sup>2</sup>以上とされた芝生広場を 7,000 m<sup>2</sup>まで拡げ、広場を囲む形で商業施設を設置、建物は広場との親和性をもたせた。
- 芝生では、春・秋の休日に、様々なイベントで楽しんで頂いており、店舗売り上げも年々上昇している。
- 開園 1 か月前に張った芝生は、半年で無くなってしまい、その年の 6~8 月に張り直した。以降、休日は全面的に開放しつつも平日は部分的に休ませる等により、芝生を休ませ回復させている。
- 芝生広場の陽射し対策として、テントやターフを配置し、利用頂いている。イベントとして、相撲、盆踊り、運動会、夜や冬対策としてのイルミネーションを展開。G20 や万博といった大阪でのイベントを盛り上げ、SNS での拡散を狙って、モニュメントを設置。今後は動物園エリアを結ぶ形で魅力向上を図りたい。

### [ 虎ノ門ヒルズ: 芝生広場の活用 ]

- 環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業 III 街区は、当初4棟の建物の計画であったが、その後、高層1棟に緑地を増やすものへと都市計画変更し、2014年に虎ノ門ヒルズ森タワーが出来上がった。地下を通る道路との関係で、広場は2階レベルとなり、6000㎡の緑地のうち、1400㎡が芝生広場。ノシバを採用し、生物多様性にも配慮。
- オープンスペースをただ作っても人が集まる居場所にはならないので、“Our Parks”をコンセプトに、ヨガや屋外映画等のイベントを継続。地域のコミュニティ活動の場としても活用。展示会等のイベント収益をブランディングに充当している。
- 芝生があることで、イベントができるが、利活用とコンディションの維持とのバランスが課題。利用ピークのGWは芝生の成長にとっても大事な時期。除草や病虫害対策の管理負担も大である。今後は、植栽基盤の研究・実践、イベント運営と芝生管理の一体的な計画、在来野草の混在によるハビタットとしての魅力向上、利用の広がり、更には維持管理費用の低減ができないかを検討していきたい。
- 芝生導入のモチベーション向上のため、1)緑化基準に芝生もカウントする、2)管理コストの低減、3)評価認定あるいは顕彰制度、が考えられる。

### [ 質疑応答 ]

- 在来野草の混在する芝生地の可能性について伺いたい。バツタ類など多様な生き物が生息できる空間は、都市部の生態系の保全にも、都市住民の環境教育にも役立つ。活用方法によって、芝生地も多様なあり方があってよいと思う。
- 20年前は、生物多様性の点からゴルフ場はけしからんと言われたが、今は里山の野辺・草地の生態系が失われてしまい、ゴルフ場が野辺の代替となっている事例があり、単一の芝生地であってもエコロジカルネットワークの点で検討する価値がある。
- 学校の芝生化がブームになった頃、学校の芝生にスポーツターフのようなきれいなものが必要かかといった議論があった。また、芝刈りの管理コストが課題であるが、ロボットによるモア(芝刈り)の検討をしているか伺いたい。  
⇒ 「てんしば」の張替えでは、人工芝、ハイブリット芝の議論もあったが、天然芝の方が、風が通り、また魅力的ではということで、天然芝でやり直した。ハイブリット芝については当時は検討に入れなかった。
- 虎ノ門ヒルズは、生物多様性に貢献する緑として評価しており、手作業で行っているので現状ではロボットは入れていない。
- 欧米だと、ターフを2つに分けて考えられ、ひとつは、スポーツターフとして、例えば FIFA 基準のように、ボールの跳ね返りや転んだ時の弾力性まで求めるもの、もう一方は、ランドスケープターフという考え方で、オープンスペースを居心地の良い形にする、というもの。
- 芝生だけのところと、混植するところを分けて考えるのが現実解ではないか。
- ここ20年の、都市への人口増と、人工被覆面の増加が著しい中、都市の中でのクールスポ

- ットが減っている。暑熱緩和だけでなく、水を浸透させるグリーンインフラとしてどう考えるか。
- 近年みられる都市のゲリラ豪雨を踏まえ、雨水をそれぞれの場所で浸透させ下水道等の負担を減らす横浜市の先進的な取組みもあるが、芝生にする必要があるかは疑問。芝生は管理が大変で、雑草が入ると景観的にも良くない。適切な管理には周りで得た収益を、維持に回す仕組みを考えないといけない。
  - 資料2に、「芝生とみどりのチカラ」とあるが、今回の議論で芝生以外のみどりがどこまで許容されるのか、ロゼットのような雑草が入ってくると寝転びたくなる状態となるが、どの程度芝生のみとするかは、季節感を感じる、生物が来る、都市の中で潤いを感じる空間とする等、その場所にどういう機能を持たせるか、考えた上で判断せねばならない。
  - 質問として3点、1)芝生と周辺の建築をどうなじませるか、境界領域の工夫、2)日射と芝生との関係について伺いたい。
    - ⇒ 「てんしば」では、1)芝生と建物の境界部について、建築は木造、前面をガラスとした。2)大阪は暑く、芝生の上に長く居られないので、夏のイベントは夕方から夜にする。芝生だけでなくサクラの木を植えており、芝だけでなくサクラの名所として認知されたいと考えている。芝生が最重要であるのは当然だが、植栽の下の芝生がダメージを受けるのはやむをえないと考えている。
    - ⇒ 虎ノ門では、1)芝生広場は2階レベルで車から分断されており、安全に子供が遊ぶ場所やランチタイムを過ごせる空間となっている。2)真夏は、朝、夜の利用が増加する。また、芝生への日当たりを確保するため、芝生の南側には木を植えないといった配置的な工夫をしている。美しい健全な芝生をキープするには手がかかる。今後は芝刈りロボットも検討する余地がある。
  - ○ 1)天然芝と人工芝の使い分けの考え方、2)イベントの利用圧に応じた費用も含めた維持管理の調整、について伺いたい。イベントの利用圧に応じてイベントの収益を得て、芝生の維持管理費に還元できればと考える。
  - 数千人規模のイベントを打つと、芝生がダメになるが、2ヶ月も休ませられない。人工芝上で遊ばせ、自然芝は手厚くメンテナンスをする、というのがこれからの主流となるのではないか。
  - エリア内で温度差を作り、風を自然の力で起こす仕掛け、皆さんで提供するのも一つの方法である。
  - 運用の立場からすると、緑の芝であった方が良く、イベント企画者と相談しながら、活用と維持管理の調整において、芝生の養生とイベント使用とのジレンマがある。
  - 横浜の山下公園ではエリア毎に役割を分けて、大きなイベントはお祭り広場に集約している。この広場は保護マットを入れても駄目になるがやむを得ないとした運営。大きな公園では用途毎にエリアを決めて回していけるが、小さな公園はできない。広場の管理水準をどうするのかを、考えねばならない。今回の発表者に、目標水準について伺いたい。
    - ⇒ 「てんしば」では、造園業者の目で、活力剤を散布するか、休ませるか等、維持管理に関する判断を行っている。そのことにより、本当に傷んでいても、春～秋なら、3週間で治る。た

だし、ラグビーワールドカップのパブリックビューイングなど、重要なイベントの実施に際しては、芝生が傷み、一時的になくなってしまふこともやむ無し、と考えている。

⇒ 虎ノ門ヒルズでは、今後、東京メトロ虎ノ門ヒルズ駅の整備等にあわせ広場ができるので、エリア全体での広場利用を考えていきたい。

- 今回の議論について、①まちなかの魅力をいかに上げていくかという中で、②気候変動、生物多様性等の課題と芝生という平場のオープンスペースの重要性、その上に、③環境機能、安らぎやくつろぎといった日常のレクリエーション機能、さらに、④商業的な利活用、タウンマネジメントで得られた利益を管理にどう還元するか 等、いくつかのレイヤーに分けて整理することができるのではないかと。
- 今後は芝生の多様な論点を整理していく。例えば、母親にとっては子どもを安全にハイハイさせられる機能が良いが、昆虫もいない状態はどうなのか、といった年代によって、芝生に対する反応が違う点をどうするのか。パークマネジメントを議論した場では、林縁部では生物多様性を確保するが、中心部は子供にとって安全な場所とするという、グラデーションをつけていく、そのような事例も出ている。
- 天然芝と人工芝に関して、FIFA では、基準が守られればハイブリット芝でも良いとされ、日本での導入事例もあり、そういう観点で今の技術水準ではなく、10 年先の技術水準で見たときに何がベストかという話題が出れば、議論が充実する。
- グラデーションとは良い案。FIFA 基準は、3メートルの高さからボールを落とし、35%弾めば良いとされ、ヴィッセル神戸のホームグラウンドで導入されており、芝生が維持されている。
- 年代による芝生の利用方法の違いは、是非掘り下げていきたい。また、生物多様性を高めるための、グラデーション的な使い分けについても、議論できれば良い。
- 飼い犬のマナー等の問題については、マナーアップを呼びかけるなどソフト面での対策、場所によって立ち入りを制限するなど、ルールやゾーニングによる使い分け等の議論ができれば良い。

以上